

二〇一四年七月 なにはづ短歌会（第百五十一回）

会記 森田幸子

なにはづ短歌会は、七月十三日（土）午後 大阪本苑にて開催

指導 森田幸子先生

詠草二十八首、参加者十四名

源氏螢かすかな光を放ちつつ暗闇の中に舞ひ上がりたり・・・・・ 大城信香

伽羅香る御堂におはす釈迦如来ご奉仕前に友と額づく・・・・・ 島村直子

続く雨に苑の白藤生ひ茂り蔓は椿に絡みつきたり

・・・・・ 神門明子

火打ち金に加工をせむと薄板のハガネ取り出す朝の工場に・・・・・ 宇佐美賢治

両陛下は英國の地を訪れて歓迎の民に笑顔でこたへり・・・・・ 宇佐美日出子

半世紀経て白地の褪せぬわが祖母の見立てし浴衣けふ解きゆく・・・・・ 出口照代

ふるさとの能登の小川に沢蟹をメダカを取りし梅雨を思ひぬ・・・・・ 高枝悦美

「さかい利晶の杜」の樹々には与謝野晶子と名付けられたる桜の木のあり

奈良典子

直心会とともに励みし友逝きしか帰幽宣伝使欄にその名を読みぬ・・・ 小西靖子

朝のコーヒー飲みて見てゐる南郷池に鴨は鳴きつつ吾がまへ過る・・・ 森田幸子

雄鶏の声遠く聞きつつ石上神宮の古き拝殿にお祓ひを受く・・・ 増井さえ子

松山のご奉仕おもひ四日間の分割修行を楽しみて受く・・・ 久井照子

わが兄の五年祭けふ参拝者の思はぬ人らが兄を称へぬ・・・ 松本和子

夕暮の山峡の道に赤蜻蛉吾が目の高さに群れて飛び交ふ・・・ 加賀見明男